

(音楽) 科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 音楽のおくりもの 第1学年・725 第2・3学年(上)・825 第2・3学年(下)・826
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱については、斉唱から混声四部合唱までを扱い、曲想を味わい、声部の重なり方などを理解しながら歌うなど、〔共通事項〕を意識しながら表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現することができるようになっている。 ○ 器楽については、和太鼓の即興演奏や、雅楽の楽器の演奏を通して、表現を工夫したり、音色に気を付けて演奏するなど、〔共通事項〕を意識しながら表現の活動を伸ばし、創意工夫して表現することができるようになっている。 ○ 創作については、第1学年では身近な言葉のリズムの特徴を理解して旋律をつくったり、日本語の抑揚を生かした旋律をつくったりする活動を通して、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現することができるようになっている。第2・3学年では、動機を変化させながら旋律をつくったり、地域の名物や名所を紹介するCMソングをつくったりする活動を通して、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現することができるようになっている。 ○ 鑑賞については、我が国の伝統的な音楽に親しんだり、オーケストラの響きや楽器の特徴を感じ取ったりする活動を通して、多様な音楽の情景や構成の理解を深め、幅広く主体的に鑑賞することができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、第1学年では、図を見ながら呼吸や姿勢、発音などを意識して発声したり、指揮の仕方について体験する学習を取り入れたりするなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動ができるようになっている。第2・3学年では、歌の雰囲気や感じ取った気持ち表現するために声の出し方を工夫したり、音楽を形づくっている要素のはたらきについて話し合ったりするなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動ができるようになっている。
内 容 の 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、斉唱や簡単な重唱を通して、曲の構成や音の重なりを理解する学習の後に、混声合唱を通して、曲想や歌詞の内容を味わいながら歌唱する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第1学年では、歌唱の教材数は21、器楽の教材数は2、創作の教材数は3、鑑賞の教材数は52であり、総ページ数は84ページで、前回より約14%増となっている。第2・3学年では、歌唱の教材数は43、器楽の教材数は9、創作の教材数は4、鑑賞の教材数は46であり、総ページ数は168ページで、前回より約14%増となっている。(上下合わせた数)
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲を高める工夫については、北海道の題材を提示したり、基礎的な事項の理解や確認ができる項目を掲載している。 ○ 主体的に学習に取り組むための工夫については、鑑賞の活動において紹介文を書いたり、学習活動のヒントを「吹き出し」で掲載したりするなどの言語活動の充実を図るための工夫がなされている。また、「創作」の活動においては、自己の表現意図を曲想とかかわらせて創造性をはぐくむとともに、身近にある楽器で音を確認しながら学習を進めている。 ○ 使用上の便宜については、各学年で学習した〔共通事項〕を示したり、学習参考資料を掲載している。

(音楽) 科調査研究報告書

書名 観点	<p>教育芸術社 中学生の音楽</p> <p>第1学年・727</p> <p>第2・3学年(上)・827</p> <p>第2・3学年(下)・828</p>
取扱内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱については、斉唱から混声四部合唱までを扱い、曲想を味わい、声部の重なり方などを理解しながら歌うなど、〔共通事項〕を意識しながら表現の技能を伸ばし、創意工夫をして表現することができるようになっている。 ○ 器楽については、アルト・リコーダーと歌唱で合わせて演奏したり、曲のまとまりを感じ取って演奏するなど、〔共通事項〕を意識しながら表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現することができるようになっている。 ○ 創作については、第1学年ではイメージをもとに音を音楽へ構成して音楽をつくったり、日本の音階の特徴を理解して旋律をつくったりする活動を通して、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現することができるようになっている。第2・3学年では決められた旋律にハーモニーをつけたり、重ね方を工夫してリズム合奏の曲をつくったりする活動を通して、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現することができるようになっている。 ○ 鑑賞については、日本の民謡の声の特徴や世界の諸民族の歌と楽器の音楽を聴く活動を通して、多様な音楽の情景や構成の理解を深め、幅広く主体的に鑑賞することができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、第1学年では、図を見ながら呼吸や姿勢、発音などを意識して発声したり、指揮の仕方について体験する学習を取り入れたりするなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動ができるようになっている。第2・3学年では、歌の雰囲気や感じ取った気持ちを表現するために声の出し方を工夫したり、音楽を形づくっている要素のはたらきについて話し合ったりするなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動ができるようになっている。
内容の構成・ 排列、分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、斉唱や簡単な重唱を通して、曲の構成や音の重なりを理解する学習の後に、混声合唱を通して曲想や歌詞の内容を味わいながら歌唱する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習出来るように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第1学年では歌唱の教材は24、器楽の教材数は1、創作の教材数は3、鑑賞の教材数は64であり、総ページ数は80ページである。第2・3学年では歌唱の教材数は40、器楽の教材数は0、創作の教材数は6、鑑賞の教材数は84であり、総ページは160ページで、いずれも前回より約11%増となっている。(上下を合わせた数)
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲を高める工夫については、北海道の題材を提示したり、基礎的な事項の理解や確認ができる項目を掲載している。 ○ 主体的に学習に取り組むための工夫については、鑑賞の活動において紹介文を書いたり、学習活動のヒントを「吹き出し」で掲載するなどの言語活動の充実を図るための工夫がなされている。また、「創作」の活動においては、自己の表現意図を曲想とかかわらせて創造性をはぐくむとともに、グループ活動等によって学習を進めるように工夫されている。 ○ 使用上の便宜については「音楽の約束」のまとめのページに各学年で学習した〔共通事項〕を示している。